

2010年度 エコノメトリックスII  
& 上級エコノメトリックスII  
第2回講義メモ

2010年10月8日

## § 2. 線形回帰モデル

### § 2.1 基礎と推定法

#### 2.1.1 基本モデル

スカラー表現

まず、 $y_t$  ( $t = 1, \dots, n$ ) が、以下のように  $x_t$  の一次関数と偶然変動  $u_t$  の和で表される線形単純回帰モデルを考えよう。

$$y_t = \beta_0 + \beta_1 x_t + u_t \quad (t = 1, \dots, n) \quad (2.1.1.a)$$

このとき、右辺の  $x_t$  のことを独立変数 (independent variable) または説明変数 (explanatory variable)、 $u_t$  のことを攪乱項 (disturbance term) と呼ぶ。また左辺の  $y_t$  のことを従属変数 (dependent variable) または被説明変数と呼ぶ。

いま、 $y_t$  が (2.1.1.a) 式で生成されるとき、 $x_t$  を条件としたときの、 $y_t$  の条件付期待値を求めよう。

$$E(y_t | x_t) = \beta_0 + \beta_1 x_t + E(u_t | x_t)$$

これより、 $u_t$  について

$$E(u_t | x_t) = 0 \quad (t = 1, \dots, n) \quad (2.1.1.b)$$

という仮定をおくと、 $E(y_t | x_t) = \beta_0 + \beta_1 x_t$  が得られる。

(2.1.1.b) 式の仮定より、

$$\begin{aligned} E(u_t) &= E_x(E(u_t | x_t)) = E_x(0) = 0 \\ E(x_t u_t) &= E_x(E(x_t u_t | x_t)) = E_x(x_t E(u_t | x_t)) = E_x(x_t \times 0) = 0 \end{aligned}$$

という2式が成立する。

## ベクトル・行列表現

では、(2.1.1.a) 式をベクトルを用いて表現してみよう。

$\mathbf{x}_t = (1, x_t)'$ 、 $\boldsymbol{\beta} = (\beta_0, \beta_1)'$  とおくと、(2.1.1.a) 式は、

$$y_t = \mathbf{x}_t' \boldsymbol{\beta} + u_t \quad (2.1.1.c)$$

と書ける。また、

$$\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_n \end{pmatrix}, \quad \mathbf{X} = \begin{pmatrix} \mathbf{x}_1' \\ \mathbf{x}_2' \\ \vdots \\ \mathbf{x}_n' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & x_1 \\ 1 & x_2 \\ \vdots & \vdots \\ 1 & x_n \end{pmatrix}, \quad \mathbf{u} = \begin{pmatrix} u_1 \\ u_2 \\ \vdots \\ u_n \end{pmatrix}$$

とおくと、

$$\mathbf{y} = \mathbf{X}\boldsymbol{\beta} + \mathbf{u} \quad (2.1.1.d)$$

で表現できる。さらに攪乱項に関する仮定は  $E(\mathbf{u} | \mathbf{X}) = \mathbf{0}$  となり、ここから  $E(\mathbf{u}) = \mathbf{0}$  および  $E(\mathbf{X}'\mathbf{u}) = \mathbf{0}$  が導き出される。

## 2.1.2 モーメント法

さて、我々に課された問題は、観測可能な  $(y_t, \mathbf{x}_t)$ ,  $(t = 1, \dots, n)$  の組から  $\boldsymbol{\beta}$  を推定することである。

一つの推定法は、攪乱項に関する仮定から導かれる  $E(\mathbf{X}'\mathbf{u}) = \mathbf{0}$  という条件を標本モーメント (標本平均) で置き換え、これを満たす  $\boldsymbol{\beta}$  を求めるものである。すなわち

$$\frac{1}{n} \mathbf{X}'\mathbf{u} = \frac{1}{n} \begin{pmatrix} \mathbf{1}'\mathbf{u} \\ \tilde{\mathbf{x}}'\mathbf{u} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} = \mathbf{0}$$

を満たす  $\boldsymbol{\beta} = \hat{\boldsymbol{\beta}}$  を求める。ここで、 $\mathbf{1} = (1, 1, \dots, 1)'$ 、 $\tilde{\mathbf{x}} = (x_1, x_2, \dots, x_n)'$  である。

$\mathbf{u} = \mathbf{y} - \mathbf{X}\boldsymbol{\beta}$  であるから、 $\hat{\boldsymbol{\beta}}$  は

$$\mathbf{X}'\mathbf{u} = \mathbf{X}'(\mathbf{y} - \mathbf{X}\hat{\boldsymbol{\beta}}) = \mathbf{0}$$

という正規方程式 (normal equation) を満たしている。 $\mathbf{X}'\mathbf{X}$  が full rank であるならば逆行列が存在するので、

$$\hat{\boldsymbol{\beta}} = (\mathbf{X}'\mathbf{X})^{-1} \mathbf{X}'\mathbf{y} = \left( \sum_{t=1}^n \mathbf{x}_t \mathbf{x}_t' \right)^{-1} \left( \sum_{t=1}^n \mathbf{x}_t y_t \right) \quad (2.1.2.a)$$

が得られる。この推定法をモーメント法 (MM; Method of Moment) という。

### 2.1.3 OLS 推定量の導出

再び線形回帰モデル  $y = X\beta + u$  に戻ろう。いま攪乱項の 2 乗和

$$S(\beta) \equiv \sum_{i=1}^n u_i^2 = \mathbf{u}'\mathbf{u} = (\mathbf{y} - \mathbf{X}\beta)'(\mathbf{y} - \mathbf{X}\beta)$$

は  $\beta$  の関数であるので、 $S(\beta)$  を最小にする  $\beta = \hat{\beta}_{OLS}$  を最小 2 乗推定量と定義しよう。すなわち、

$$\hat{\beta}_{OLS} = \arg \min_{\beta} S(\beta)$$

である。

$S(\beta)$  の最小値を求めるためには、スカラーである  $S(\beta)$  をベクトルである  $\beta$  で偏微分しなければならぬ。先に進む前に、ベクトルの微分について簡単に説明しておこう。

#### ベクトルの微分

いま、 $g: R^k \rightarrow R$  である関数  $z = g(\mathbf{w})$  を考える。ここで、 $\mathbf{w} = (w_1, w_2, \dots, w_k)'$  である。このとき、スカラー  $z$  のベクトル  $\mathbf{w}$  による微分を次のように定義する。

$$\frac{\partial z}{\partial \mathbf{w}} = \begin{pmatrix} \frac{\partial z}{\partial w_1} \\ \frac{\partial z}{\partial w_2} \\ \vdots \\ \frac{\partial z}{\partial w_k} \end{pmatrix}$$

このように、ベクトル  $\mathbf{w}$  による微分は、 $z$  を  $\mathbf{w}$  の第  $i$  要素で微分したものを第  $i$  要素とする  $k \times 1$  ベクトルとして表現される。

次に、ベクトルの積の微分を考えることにしよう。理解のために、以下のような  $2 \times 1$  のベクトル  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$  を考えよう。

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$$

$\mathbf{a}'\mathbf{b} = a_1b_1 + a_2b_2$  であるから、 $\mathbf{a}'\mathbf{b}$  を  $\mathbf{a}$  で微分すると

$$\frac{\partial(\mathbf{a}'\mathbf{b})}{\partial \mathbf{a}} = \begin{pmatrix} \frac{\partial(\mathbf{a}'\mathbf{b})}{\partial a_1} \\ \frac{\partial(\mathbf{a}'\mathbf{b})}{\partial a_2} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} = \mathbf{b}$$

となる。また、 $\mathbf{a}'\mathbf{b}$  を  $\mathbf{b}$  で微分すると

$$\frac{\partial(\mathbf{a}'\mathbf{b})}{\partial \mathbf{b}} = \begin{pmatrix} \frac{\partial(\mathbf{a}'\mathbf{b})}{\partial b_1} \\ \frac{\partial(\mathbf{a}'\mathbf{b})}{\partial b_2} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} = \mathbf{a}$$

が得られる。

## OLS 推定量

さて、攪乱項の 2 乗和である  $S(\beta)$  を最小化する 1 階の条件は、

$$\frac{\partial S(\beta)}{\partial \beta} = \mathbf{0}$$

である。また

$$\begin{aligned} S(\beta) &= \mathbf{u}'\mathbf{u} = (\mathbf{y} - \mathbf{X}\beta)'(\mathbf{y} - \mathbf{X}\beta) \\ &= \mathbf{y}'\mathbf{y} - \beta'\mathbf{X}'\mathbf{y} - \mathbf{y}'\mathbf{X}\beta + \beta'\mathbf{X}'\mathbf{X}\beta \end{aligned}$$

であるから、

$$\begin{aligned} \frac{\partial S(\beta)}{\partial \beta} &= \frac{\partial \mathbf{y}'\mathbf{y}}{\partial \beta} - \frac{\partial \beta'(\mathbf{X}'\mathbf{y})}{\partial \beta} - \frac{\partial (\mathbf{y}'\mathbf{X})\beta}{\partial \beta} + \frac{\partial \beta'(\mathbf{X}'\mathbf{X})\beta}{\partial \beta} \\ &= \mathbf{0} - \mathbf{X}'\mathbf{y} - \mathbf{X}'\mathbf{y} + \{(\mathbf{X}'\mathbf{X})\beta + (\mathbf{X}'\mathbf{X})\beta\} \\ &= -2\{\mathbf{X}'\mathbf{y} - (\mathbf{X}'\mathbf{X})\beta\} = \mathbf{0} \end{aligned} \tag{2.1.3.a}$$

が得られる。別法として、合成関数の微分を行えば

$$\begin{aligned} \frac{\partial S(\beta)}{\partial \beta} &= \frac{\partial \mathbf{u}'}{\partial \beta} \frac{\partial S(\beta)}{\partial \mathbf{u}} \\ &= \frac{\partial \mathbf{u}'}{\partial \beta} \frac{\partial \mathbf{u}'\mathbf{u}}{\partial \mathbf{u}} \\ &= -\frac{\partial \beta'\mathbf{X}'}{\partial \beta} \frac{\partial \mathbf{u}'\mathbf{u}}{\partial \mathbf{u}} = -\mathbf{X}'(\mathbf{u} + \mathbf{u}) = -2\mathbf{X}'(\mathbf{y} - \mathbf{X}\beta) = \mathbf{0} \end{aligned}$$

が得られる。

(2.1.3.a) 式より、 $(\mathbf{X}'\mathbf{X})$  が full rank であれば、逆行列が存在するから、 $\beta$  の OLS 推定量は

$$\hat{\beta}_{OLS} = (\mathbf{X}'\mathbf{X})^{-1} \mathbf{X}'\mathbf{y} \tag{2.1.3.b}$$

として得られる。これは、前節で求めたモーメント法推定量 ( (2.1.2.a) 式 ) と同一である。